

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

[ACCU 奈良 TOP](#)

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22

April 2010
from NARA



来運橋（日本橋）
（ベトナム・ホイアン）

文化遺産ワークショップ ベトナム・ホイアン

国際会議 文化遺産保護と人材養成

国際セミナー 平城遷都1300年祭
「古代の都を考える - 奈良（1300年）とハノイ（1000年） - 」

研修レポート 集団研修 / 個人研修・モンゴル
イクロム総会報告

WALKING MAP 雪柳の寺「海龍王寺（かいりゆうおうじ）」

◀ Pagetop

©Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO(ACCU)ALL RIGHTS RESERVED

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

[ACCU 奈良 TOP](#)

文化遺産ワークショップ ● WorkShop

ベトナムのホイアンで 文化遺産ワークショップを 開催しました



アジア太平洋地域の現地に専門家を派遣して研修を行う「文化遺産ワークショップ」は、今回で3回目を迎えました。2009年度は、かつてアジアとヨーロッパをつなぐ国際貿易港として栄えたベトナム中部の港町、ホイアンで開催しました。

ホイアンには、日本や中国の影響を受けた木造建造物が数多く残り、その町並みは1999年世界文化遺産に登録されました。現在ベトナムには、ホイアンのように古い建築物がひとつの町や集落として残っているところが数多くあります。その何処でも、一つ一つの建物をどのように修復し保存していくか、そして町並み全体をどのように保存していくのが、大きな課題となっています。

今回のワークショップは、「木造建造物の調査と修復」をテーマに、2009年10月26日から31日までの6日間開催し、ベトナム全土から文化遺産保護に従事する専門家16名が参加しました。

開会式では、西村康ACCU奈良事務所長とグエン・テ・フンベトナム文化スポーツ観光省文化遺産局長による主催者挨拶のあと、地元のホイアン市人民委員会や、ホイアン遺跡管理事務所からも歓迎の挨拶をいただきました



ホイアン市の町並みの様子



ワークショップ会場（ホイアン市博物館）



参加者記念写真

今回のプログラムは、古い伝統的な建物をどのように調査・記録して修復・保存していくのか、その具体的な手法を身につけることが目的です。最初に、奈良県文化財保存課の今西良男さんが、木造建造物の修理のプロセスについて講義をしました。続いて、それを実践するため、参加者は3班に分かれて、市内にある民家3件を教材にして、今西良男さ



ん、奈良文化財研究所の島田敏男さん、奈良市文化財課の山口勇さんの指導のもと、実習を行いました。参加者は、建物を正確に記録するため、建物全体を細かく自分の目で観察し、実測道具を使って建物の寸法を測り、図面を作成しました。そして、作成した図面に、建物の傾き、虫喰い、雨漏りの箇所などの破損状態を記入しながら、どういう修理が必要なのか、3人の講師の助言を得ながら議論しました。

最終日には、島田敏男さんによる町並み保存の実情と課題に関する講義のあと、文化財建造物保存技術協会の亀井伸雄さんが、プログラム全体を振り返って、総括講義を行いました。

6日間の期間中、参加者からは、とりわけ民家を使っての実習が好評で、今後の仕事に活かせる大変貴重な経験であったとの感想が寄せられました。

ゴ・ミン・ツァンさん

トゥアティエン・フエ省革命歴史博物館所属

講義を受けたあと、すぐに民家での実習を行う研修がとても良かったです。この機会を通じて得た知識と経験を、今後の仕事に役立てるとともに、同僚にも伝えていきたいと思っています。

フォン・ティ・ホン・リンさん

ヴィンフック省遺跡管理委員会所属

私の地元ヴィンフック省では木造建造物が多く残っており、研修で得た知識や経験を保存関係の仕事に活かしていきたいです。また講師の皆さんの仕事に対する姿勢と責任感にはとても感心しました。



講義風景



実習風景



メジャーボールで部材の高さを測る



実習民家の1つ (チャンフー69番地民家)



平面図の作成実習



参加者による建物破損状態の説明



柱間の測定

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA



contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

[ACCU 奈良 TOP](#)

国際会議・国際セミナー ● International Conference / Seminar

国際会議

文化遺産保護と人材養成

1999年8月に開設したACCU奈良事務所は、主に文化遺産の保護に携わる人材養成のための研修事業を実施してきました。2009年は、ちょうど10年の節目にあたります。そこで、今回の国際会議では、人材養成における国際協力をテーマに、これまでの事例をもとに、今後の望ましい協力のあり方について議論しました。（2010年1月27日から29日まで、奈良県新公会堂）

最初に、文化遺産の保護を推進する国際機関であるイクロム（本部/ローマ）の所長ムニール・ブシュナキさんが、文化遺産保護の人材養成の国際動向を、また東南アジア文相機構考古芸術センター（SPAFA）主任研究員のウ・ニョン・ハンさんが、東南アジア地域での人材養成の課題について、それぞれ基調講演を行いました。次いで国内外の専門家が、日本、中国、インド、モンゴル、インドネシア、ベトナム、タイでの人材養成の事例と課題について発表しました。そしてこれらの発表を踏まえ、総合討論が行われました。ACCU奈良事務所がこれまで行ってきた人材養成事業が高く評価された一方で、研修で扱う分野は多岐にわたっており、1つの組織だけで行うことには限界があることも指摘されました。ACCU奈良事務所を始め、さまざまな機関が連携して事業を進めていくことが必要であるとの提案などがありました。



ムニール・ブシュナキ イクロム所長



文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. **22** April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

ACCU 奈良 TOP

国際会議・国際セミナー ● International Conference / Seminar

国際セミナー

平城遷都1300年祭

古代の都を考える — 奈良とハノイ —

1300年

1000年

2010年1月30日、奈良県新公会堂で、文化遺産国際セミナーを開催しました。日本及びベトナムの研究者が、古代の都であった奈良の平城京とベトナムのタンロン皇城遺跡の最新情報を紹介しました。

ハノイの都(タンロン皇城遺跡)を掘る

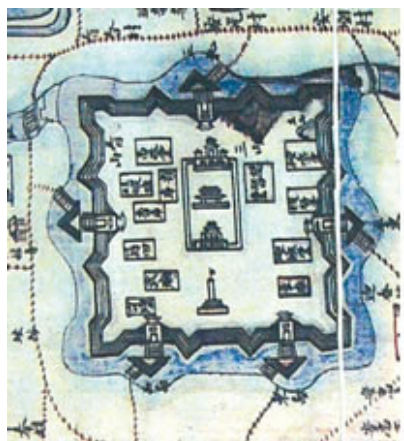
ベトナム考古学研究所長 トン・チュン・ティン氏

今年、奈良は平城京遷都1300年ですが、ハノイもタンロン皇城建都1000年の記念の年です。タンロンとは、漢字で「昇龍」と書き、龍が昇っていく土地という意味です。

1010年、李王朝がタンロン皇城を造営しました。その後、陳朝、黎(れい)朝、阮(ぐえん)朝と代わっていきますが、フランスの植民地となったり、ベトナム戦争などにより多くの貴重な歴史的建造物は破壊されました。

2002年、国会議事堂の建て替え工事をきっかけに、タンロン皇城の遺跡が発見されました。現在、日本人研究者の支援をいただきながら、約2万m²を発掘調査しています。調査の結果、遺跡は、7世紀頃から19世紀まで重なっていることが分かってきました。奈良時代に遣唐使として、唐に渡った阿倍仲麻呂が長官を務めた安南都護府(あんなんとごふ)もこの場所にあったものと考えられています。

都護府...唐代に置かれた辺境統治機関



タンロン皇城の古地図



発掘調査が進むタンロン皇城遺跡

平城京と東アジアの都

奈良文化財研究所都城発掘調査部長 井上 和人氏

平城京はなぜ建設されたのだろうか

京域全体の面積としては、平城京よりも広大であった藤原京。天武・持統天皇が20年以上の歳月を費やして完成させた「理想の都」でしたが、遷都(694年)後わずか16年で放棄され、平城京への遷都が強行されました。

669年以来中断していた遣唐使が、702



年、33年ぶりに派遣されました。

派遣された遣唐使たちは、当時のグローバルスタンダードであった唐の長安城に比べると、藤原京は貧弱であり、都城にとって重要な羅城（らじょう：城壁）・羅城門をはじめ、多くの要素が欠落している実状を目の当たりにしました。

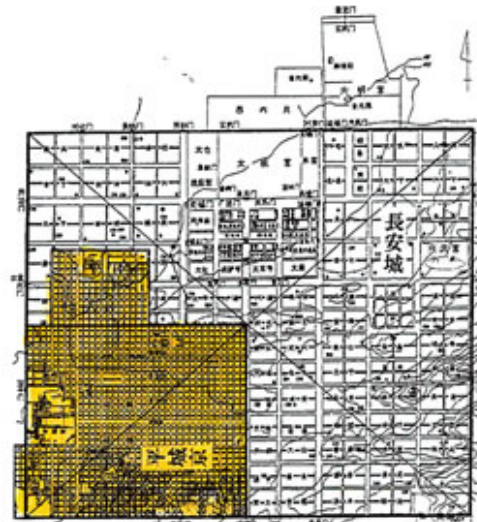
突然の平城京遷都は、都城（とじょう：羅城城壁で囲まれた首都）の造営が国家秩序の実現のために不可欠であるとの統治観のもとに、国威を発揚すべき舞台装置として、藤原京の欠陥を克服する形で新たに建設されたものであったと私は考えます。

7世紀後半に、朝鮮半島から日本列島に及ぶ地域で展開された唐の圧倒的な軍事圧力の中で、国家と天皇政権の生き残りをかけた方策として、唐に配慮しつつも、日本に服属すべき国として位置づけようとしていた他の諸国、諸民族に対して皇権を十二分に誇示すべく建設されたのが平城京なのです。

平城京は、以後の古代日本の都城の規範となっていきます。



平城宮第一次大極殿 復原建物
(写真提供：奈良文化財研究所)



長安城×1/4=平城京

ナント！平城京は長安城のソックリさんだった！

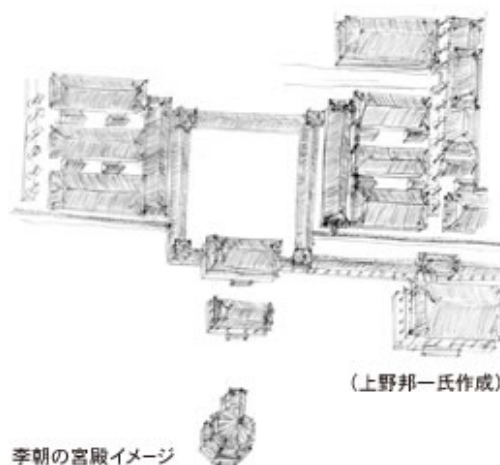
宮殿の建物をイメージする

奈良女子大学特任教授 上野 邦一氏

今ベトナムに残っている最も古い時期の建物は、17世紀ぐらいのものです。李朝・陳朝（11世紀～14世紀）時代の建物は残っていません。中国では、建物が残っていない場合でも、お墓や石窟（せっきつ）に描かれている壁画など、絵画資料があるので、それらが参考になるのですが、ベトナムでは絵画資料すらほとんど残っていないのです。

ですから、当時の建物をイメージすることは非常に難しい作業です。しかし、文化遺産保護についてベトナムの人々の理解を得ながら、貴重な遺跡の保存・活用を進めていくためには、「建物のイメージ」を提示する必要があります。

幸いなことに、ベトナムの建物の構造は、日本や中国の建物と似ていることが分かってきました。現在、地元の考古学研究者とともに、建物を表現した土製の出土品などを参考にしながら、宮殿の建物をイメージするための作業を少しずつ進めているところです。



(上野邦一氏作成)

李朝の宮殿イメージ



土製の出土品（ベトナム・タイビン省博物館所蔵）

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

ACCU 奈良 TOP

研修レポート ●

集団研修

9/8 ~ 10/8

2009年9月8日から10月8日まで、アジア太平洋地域から16カ国16名の研修生を招き、「木造建造物の保存と修復」をテーマに研修を実施しました。



開講式

16名の研修生は、それぞれ文化省、博物館、研究所などに勤務し、木造建造物の保存・修復に携わる専門家です。研修では、講義・実習、さらに、事例に触れる機会としての臨地研修を多く取り入れました。研修生は、研修講師と熱のこもった意見交換を交わすなど、研修の成果を自国で活かそうと意欲的に取り組みました。



東大寺持仏堂で彩色の現状記録実習に
取り組む研修生

研修生からのメッセージ

カルマ・ワンチュクさん (ブータン)

自治・文化省 文化財保護事業主任

木造建造物を修理する際、状態の良い部材は残し、劣化した部分のみ取り替える日本の手法は、森林資源も修復にかかる予算も有効に使えるということを学びました。帰国後は、ぜひこの日本の手法を取り入れていきたいと思えます。

アタレリア・ロエナ・アクハタ・ヘイヘイさん (ニュージーランド)

史跡トラスト マオリ文化遺産顧問

文化遺産の記録・保存修復計画の策定、伝統技術や材料の保存の重要性を認識しました。特に、伝統的技術や材料の保存は、先人の知恵や工夫を現在に伝え、さらに今後何百年にもわたって存続させるために重要であることを理解しました。

リヤナ・アラチチゲ・ヴィシャカさん (スリランカ)

中央文化基金文化財修復調査職員

文化遺産の危機管理についての研修が大変有意義でした。スリランカでは、2004年の津波被害の後も、文化財の危機管理計画が進んでいません。帰国後は、研修の成果を活かし、その体制づくりをしていきたいと思えます。

カリキュラム (概要版)

講義

「日本の木造建築概論」「建造物の管理・伝統技術継承」「木材の保存と科学」など

実習

奈良市指定文化財 旧田中家住宅にて「木造建造物の修復」現場実習など

臨地研修

平城宮跡、東大寺、彦根城、白川村、高山市など

報告・討議

研修生の自国の「現状と課題」についてイクロム講師との討議・意見交換
* イクロム（文化財保存修復研究国際センター）

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

ACCU 奈良 TOP

研修レポート ●

個人研修・モンゴル

11/17 ~ 12/17

2009年11月17日から12月17日までの約1ヶ月間、モンゴル国立文化遺産センターから3名を招き、研修を実施しました。

モンゴルは、かつてチンギス・ハンがモンゴル帝国を形成するなど、長い歴史を有しています。発掘をすると数多くの出土品が出てきますが、遺物を保護する人材が不足し、その育成が現在求められています。今回の研修は、木製品や金属製品などの文化財保存修復に必要な知識や技術の習得を目的に実施しました。

カリキュラム（概要版）

奈良文化財研究所

講義

「文化財保存科学概論」など

実習

「木製品・金属製品の保存修復」など

臨地研修

（奈良県）

東大寺、橿原考古学研究所など

（他府県）

日光の社寺（栃木県）、東京文化財研究所（東京都）、

安土城考古博物館（滋賀県）など



土層のはぎ取り実習（平城宮跡にて）



金箱の張り付け実習（日光社寺文化財保存会にて）



木製品の保存修復実習（奈良文化財研究所にて）

研修生からのメッセージ



チンゾリクさん

多くの専門的な知識と技術を教えていただき、今後モンゴルでの文化遺産保護の基礎になるものばかりでした。帰国後は、この研修の成果を同僚に伝えるとともに、これからも同じような研修が実施され、両国の交流がより深まっていくことを望んでいます。



ダバーバリさん

研修中でお会いした講師の方々、何事にも紳士的で、几帳面でまた計画的に仕事をされているのに感心しました。日本が発展してきた理由が、このようなところにあるのだと感じました。



ニヤムドルジさん

長いようで短い充実した研修の日々を送ることができました。研修で学んだ知識や技術を、今後の仕事に活かしていけるよう努力します。

また研修で訪れた奈良の東大寺の雄大さや日光の色彩の美しさに感動しました。

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

ACCU 奈良 TOP

研修レポート ●

イクロム総会報告

ACCU奈良事務所 所長 西村 康

ACCU奈良事務所の活動における重要なパートナーであるイクロム（文化財保存修復研究国際センター）の第26回総会が2009年11月25日から同27日までローマで開催された。総会の時点でのイクロム加盟国は127カ国、そのうちの83カ国からの代表団、24の関係機関からのオブザーバー、非加盟の3カ国が参加。2年に一度の総会で、事業の報告と計画、予算の承認、評議員の選出などが主たる議題である。

今回、私は、ACCU奈良事務所の事業のなかでも、特に、新たに開始したワークショップとインターナショナル・コレスポンデント（現地通信員）のシステムについて紹介した。会期中には、当事務所の研修参加者やワークショップを共催した国々の代表と会い、旧交を温めることができた。

会議は、通常英語とフランス語の同時通訳で行うが、今回はスペインの費用提供により、スペイン語の通訳もあった。これでも分かるように、カリブ海諸国を含めた南米などスペイン語圏を対象とする事業を拡大していること、いま一つは、アフリカ諸国を意識的に取り上げる方向にあることが印象に残った。



会場となったFAO（国連食糧農業機関）遠望



会議の様子

文化遺産 ニュース

Cultural Heritage News

vol. 22 April 2010
from NARA

contents

文化遺産ワークショップ

ベトナム・ホイアン

国際会議

文化遺産保護と人材養成

国際セミナー

平城遷都1300年祭

「古代の都を考える

- 奈良とハノイ -」

研修レポート

集団研修

個人研修・モンゴル

イクロム総会報告

WALKING MAP

雪柳の寺「海龍王寺」

財団法人
ユネスコ・アジア文化センター
文化遺産保護協力事務所

ACCU 奈良 TOP

WALKING MAP

ACCU奈良事務所周辺の見どころ



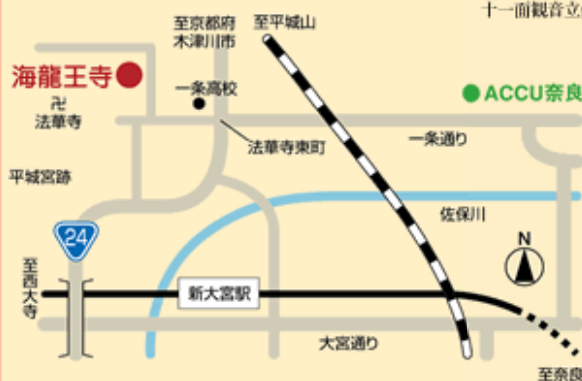
「大和一の雪柳」といわれる白い花が境内を彩る春の海龍王寺

木々のなかにひっそりと佇(たたず)む古刹(こさつ)「海龍王寺」は、飛鳥時代に毘沙門天(びしゃもんてん)を本尊として建てられましたが、731年に光明皇后により「海龍王寺」として改めて、創建されたお寺です。初代住持(じゅうじ)は、遣唐使の玄昉(げんぼう)です。玄昉は、唐から帰国途中、暴風雨に襲われましたが、一心に海龍王経を唱え、九死に一生を得て帰京し、「海龍王寺」の初代住持に任ぜられました。そのとき、寺号も「海龍王寺」と改められたと伝えられています。奈良時代より、遣唐使の安全祈願を行ってきた海龍王寺では、現在も、旅や留学の安全祈願に多くの参拝者が訪れます。

また、春になると、「大和一の雪柳」といわれる白い雪柳が境内を美しく彩ります。海龍王寺は、静かで緩やかな時の流れを感じながら、春を満喫することができる古刹です。



十一面観音立像(重要文化財) 五重小塔(国宝) 写真提供:海龍王寺



春季特別公開 「十一面観音特別開帳」

公開期間 平成22年 3月23日～4月7日
平成22年 5月1日～9日
海龍王寺 電話0742-33-5765